

平成 29 年度

病虫害発生予察情報 第 12 号

7 月 月 報

北海道病虫害防除所 平成 29 年 8 月 18 日

<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/>
Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

I. 気象概況 札幌管区気象台発表 北海道地方気象速報

－『高温・並雨・多照』上・中旬に記録的な高温－

この期間の天気は、上旬前半は低気圧や気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多かったが、上旬後半は高気圧の張り出しの中となつて晴れた日が多く、中旬以降の天気は短い周期で変わった。16 日と 21～22 日には低気圧や前線の影響で大雨となつた所があり、家屋の浸水や道路の冠水、土砂崩れなどが発生した。また、上旬と中旬は北海道付近が暖かい空気に覆われて真夏日となつた日が多く、オホーツク海側や太平洋側東部では猛暑日となつた所もあった。気温は上旬と中旬は平年よりかなり高く、下旬は高く、月平均気温はかなり高かった。降水量は上旬は平年より少なかったが、中旬と下旬は多く、月降水量は平年並だった。日照時間は上旬は平年よりかなり多く、中旬と下旬は多く、月間日照時間はかなり多かった。なお、太平洋側では、上旬と中旬の気温が 1961 年の統計開始以降で最も高く、7 月の気温も 1946 年の統計開始以降で最も高かった。

上旬：1 日は気圧の谷の影響で日本海側やオホーツク海側北部を中心に雨が降ったが、太平洋側やオホーツク海側南部では晴れた所が多かった。2 日は低気圧を含む気圧の谷が通過し雨の降った所が多く、大雨となつた所もあったが、太平洋側は晴れた所が多かった。3 日は気圧の谷の影響で雨の降った所が多かった。4 日は気圧の谷の影響で日本海側南部と太平洋側では雨の降った所が多かった。5～9 日は高気圧の張り出しの中となつて概ね晴れたが、6 日は気圧の谷の影響でオホーツク海側や太平洋側東部で雨の降った所もあった。10 日は高気圧の張り出しの中となつて日本海側南部や太平洋側では晴れたが、気圧の谷の影響で大気の状態が不安定となつて日本海側北部やオホーツク海側を中心に雨が降り、大雨となつた所もあった。日降水量は名寄市大橋で 61.0mm など。

中旬：11 日は前線の影響で日本海側やオホーツク海側を中心に雨が降った。日降水量は利尻町杓形で 62.5mm など。12 日は前線や暖かく湿った気流の影響で雨の降った所があったが、次第に高気圧の張り出しの中となつて晴れた所が多かった。13～15 日は高気圧の張り出しの中となつて概ね晴れたが、15 日は気圧の谷の影響で雨の降った所もあった。16 日は低気圧や前線の影響で全道的に雨が降り、大雨となつた所もあった。日降水量は陸別町小利別で 77.5mm など。17～18 日は低気圧を含む気圧の谷の影響により広い範囲で雨が降り、17 日は大雨となつた所もあった。日降水量は 17 日に浦臼で 75.0mm など。19 日は高気圧の張り出しの中となつて日本海側北部やオホーツク海側で晴れた所が多かったが、気圧の谷や前線の影響で雨の降った所もあった。20 日は気圧の谷の影響で雨の降った所があった。

下旬：21 日は高気圧の張り出しの中となつて晴れた所が多かったが、前線が接近し日本海側で雨の降った所が多く、大雨となつた所もあった。日降水量は初山別で 66.0mm など。22 日は前線が通過して広い範囲で雨が降り、大雨となつた所もあったが、日本海側では次第に高気圧の張り出しの中となつて晴れた所が多かった。日降水量は函館市川汲で 87.0mm など。23 日は高気圧の張り出しの中となつて日本海側を中心に晴れたが、前線を伴った低気圧の影響によりオホーツク海側南部や太平洋側では雨の降った所が多かった。24 日は気圧の谷の影響で曇った所が多く雨の降った所もあったが、日本海側南部では晴れた。25～27 日は高気圧の張り出しの中となつて広い範囲で晴れた。28 日は前線の影響で全道的に雨が降った。日降水量は根室市納沙布で 74.0mm など。29～30 日は高気圧の張り出しの中となつて広い範囲で晴れたが、前線の影響で雨の降った所もあった。31 日は低気圧を含む気圧の谷の影響により広い範囲で雨が降り、大雨となつた所もあった。日降水量は真狩で 78.5mm など。

気象表

	気温偏差℃	階級	降水比%	階級	日照比%	階級
北海道 22 地点平均	+2.5	か高	99	並	131	か多
日本海側 10 地点平均	+1.9	か高	120	多	106	並
オホーツク海側 4 地点平均	+3.0	か高	93	並	122	多
太平洋側 8 地点平均	+3.0	か高	74	少	168	か多

(注)階級分布図の気温・降水量・日照時間は、概ね「高(多)」、「並」、「低(少)」の 3 段階で表示します。各階級の幅は、平年値の作成期間(1981～2010 年の 30 年間)における各階級の出現率が 1:1:1 となるように決めてあります。なお、平年値作成期間内の上位、下位 10%の範囲に入る場合は「か高(多)」、「か低(少)」、「かかなり」で表しています。

Ⅱ. 病害虫発生概況

A. 水稻

1. いもち病（葉いもち） 発生期 やや早 発生量 やや多

予察田の「きらら397」における葉いもちの本田初発期は、岩見沢市では平年より早く、比布町、北斗市では平年よりやや早かった。発生量は、比布町では平年並で、岩見沢市では平年よりやや多く、北斗市では平年より多かった。

巡回調査によると、7月6半旬現在いずれの地点においても発生は認められていない。

予察田におけるいもち病の初発期

地点	品種名	取り置き苗初発期		本田初発期		平年数
		本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	6月29日	6月29日	7月16日	7月24日	6
	ななつぼし	7月2日	6月29日	7月16日	7月20日	6
比布町	きらら397	6月26日	6月19日	7月11日	7月14日	10
	ななつぼし	6月26日	—	7月10日	—	—
北斗市	きらら397	6月19日	6月26日	7月15日	7月18日	10

注1)各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

注2)—は平年値なし

予察田における葉いもち発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	0	0.2	1	3.3	25	9.3	6
	ななつぼし	0	0.7	3	9.3	27	21.3	6
比布町	きらら397	0	2.4	25	11.9	25	27.4	10
	ななつぼし	0	—	25	—	27	—	—
北斗市	きらら397	0	0.2	25	2.5	35	9.0	10

注1)各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

注2)—は平年値なし

一般田におけるいもち病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)		普及センター		地点数	発病株率(%)	
			7月3半旬	7月6半旬				7月3半旬	7月6半旬
空知	本所	5	0	0	渡島	本所	3	0	0
	南東部	2	0	0	檜山	本所	2	0	0
	南西部	3	0	0		北部	2	0	0
	中空知	4	0	0	上川	本所	8	0	0
	北空知	7	0	0		富良野	2	0	0
石狩	本所	5	0	0		大雪	4	0	0
	北部	7	0	0		士別	2	0	0
後志	本所	4	0	0	名寄	3	0	0	
胆振	東胆振	4	0	0	留萌	本所	3	0	0
日高	西部	3	0	0		南留萌	3	0	0

2. ニカメイガ 発生期 やや遅 発生量 やや少

予察田のフェロモントラップにおける成虫の初発期は、長沼町で平年並、北斗市では平年よりやや遅かった。誘殺頭数は長沼町で平年より少なく、北斗市では平年並だった。

予察田におけるフェロモントラップによるニカメイガの誘殺頭数

月・半旬	長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	6	3.8	0	1.6
2半旬	8	8.9	0	1.5
3半旬	4	25.7	3	1.0
4半旬	7	12.7	1	2.8
5半旬	0	3.0	3	1.5
6半旬	0	13.6	1	2.8
初発期	6月29日	6月27日	7月11日	7月6日
平年数	5		10	

3. ウンカ類 発生期 ヒメトビウンカ(第2回)：やや早、セジロウンカ：並 発生量 やや少

予察田におけるヒメトビウンカ第2回成虫の初発期は、北斗市で平年より早く、長沼町、比布町では平年よりやや早かった。予察田による成虫誘殺数は、北斗市で平年より多かったものの、長沼町および比布町では平年より少なかった。水田すくい取りによる成虫捕獲数は、北斗市で平年よりやや多かったものの、長沼町および比布町では平年より少なかった。

予察田におけるセジロウンカの初発期は、北斗市では平年より早く、長沼町では平年より遅かった。比布町では誘殺が認められていない。予察田による成虫誘殺数は、長沼町では平年並で、北斗市では平年より少なかった。水田すくい取りによる成虫捕獲数は、北斗市で平年並だった。長沼町および比布町では捕獲が認められなかった。

巡回調査によると、ヒメトビウンカ成幼虫の水田すくい取りによる捕獲数は、全 76 調査地点中最大でも 14 頭であり、吸汁害が発生する密度(成虫：1,800 頭、または幼虫：900 頭)に達した地点は認められなかった。

ヒメトビウンカ成虫の予察田誘殺数および予察田における水田すくい取り数

月・半旬	予察田誘殺数						水田すくい取り数 (20回振り×5日分換算値)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	0.2	0	0.7	0	0.0	0	0.5	0	0.8	0	0.3
2半旬	2	2.7	5	3.6	1	0.1	0	0.3	0	0.8	2.5	0.0
3半旬	22	10.1	28	7.7	4	0.3	0	1.0	0	5.4	7.5	0.3
4半旬	4	81.5	185	55.0	7	1.2	3.8	2.3	25	27.5	0	1.8
5半旬	38	102.7	6	287.1	25	1.3	7.5	16.0	35	64.1	2.5	2.3
6半旬	39	244.2	86	2420.4	21	2.9	5.0	15.1	10	182.0	5.0	3.0
初発期	7月9日	7月13日	7月10日	7月14日	7月10日	7月25日						
平年数	10		10		10		5		10		10	

※初発期は第2回成虫

セジロウンカ成虫の予察田誘殺数および予察田における水田すくい取り数

月・半旬	予察田誘殺数						水田すくい取り数 (20回振り×5日分換算値)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.5
2半旬	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.8
3半旬	0	0.0	0	0.1	1	0.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4半旬	0	0.8	0	0.3	1	5.0	0	0.0	0	0.0	8	1.0
5半旬	6	0.3	0	0.5	3	2.3	0	0.3	0	0.0	0	0.3
6半旬	0	2.7	0	11.7	1	20.3	0	0.0	0	0.5	0	7.3
初発期	7月23日	7月18日	-	7月25日	7月12日	7月26日						
平年数	10		10		10		5		10		10	

巡回調査によるヒメトビウンカ成幼虫の水田 20 回振りすくい取り頭数

普及 センター		地点数	7 月 6 半旬	
			本年	昨年
空知	本所	5	0	0
	南東部	2	0	0
	南西部	3	0.3	0.3
	中空知	4	0	0.3
	北空知	7	1.1	3.0
石狩	本所	5	0	0
	北部	7	0	0
後志	本所	4	2.5	1.3
胆振	東胆振	4	0	0
日高	西部	3	0	0.5

普及 センター		地点数	7 月 6 半旬	
			本年	昨年
渡島	本所	3	0	3.7
檜山	本所	2	0	17.5
	北部	2	3.0	0
上川	本所	8	1.1	2.1
	富良野	2	0	0
	大雪	4	4.5	8.3
	士別	2	0	0
	名寄	3	2.0	0
留萌	本所	3	0	0.7
	南留萌	3	0	0

4. イネドロオイムシ 発生量 やや少

予察田における幼虫数は比布町で平年より少なく、長沼町で平年よりやや少なく、北斗市では平年よりやや多かった。被害葉率は長沼町および北斗市では平年並で、比布町では平年より低かった。

7 月 6 半旬の巡回調査によると、被害葉率は全 76 地点中最大でも 15%にとどまり、移植栽培で減収する被害葉率 70%に達した地点はなかった。

予察田におけるイネドロオイムシの発生状況

月・半旬	水田見取り調査による幼虫数(25株あたり)						被害葉率(%)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	50.5	42.5	10	141.7	146.5	54.8	7.8	7.3	0.8	26.4	18.3	13.1
2半旬	78.5	64.9	2	80.4	94.5	79.0	16.8	11.6	0.7	28.7	23.1	32.9
3半旬	52.5	68.5	2	28.4	38.0	16.8	15.6	13.8	1.0	27.9	22.6	12.8
4半旬	13.5	61.1	0	9.5	7.5	11.7	14.2	18.6	0.9	28.7	23.3	30.3
5半旬	4.0	26.6	0	5.3	3.0	9.1	14.6	14.5	0.6	26.6	16.8	12.9
6半旬	0.5	1.8	2	2.7	2.5	3.3	10.3	9.5	0.7	28.1	15.6	23.6
平年数	5		10		10		5		10		10	

巡回調査によるイネドロオイムシの幼虫数および被害葉率

普及 センター		地点数	幼虫数				被害葉率(%)	
			6月6半旬		7月3半旬		7月6半旬	
			本年	昨年	本年	昨年	本年	昨年
空知	本所	5	1.1	－	0	1.6	0.8	2.0
	南東部	2	0	－	0	2.5	0	0
	南西部	3	0	－	0	0.3	0	1.0
	中空知	4	3.8	－	0	1.5	0.2	0.3
	北空知	7	5.4	－	0.7	0.9	2.1	1.3
石狩	本所	5	0	－	3.2	3.6	1.5	2.2
	北部	7	0	－	0.7	1.3	0.1	0.3
後志	本所	4	0	－	0	0	0	0
胆振	東胆振	4	0	－	0	0	0	0
日高	西部	3	0	－	3.3	0	2.3	0
渡島	本所	3	0	－	0	0	0	0
檜山	本所	2	0	－	0	0	0	0
	北部	2	0	－	0	0	0	0
上川	本所	8	0.1	－	0	1.8	0	2.5
	富良野	2	2.5	－	17.5	4.0	2.0	0
	大雪	4	0	－	0	1.0	0	0.3
	士別	2	0	－	0	0	0	0.5
	名寄	3	0	－	0	6.0	0	0
留萌	本所	3	0	－	0	0	0	0
	南留萌	3	0	－	0	0	0	0

注 1) 幼虫数は 25 株あたり

注 2) 6 月 6 半旬の幼虫数は今年度から調査を開始した

5. アカヒゲホソミドリカスミカメ(第2回)

発生期 やや早 発生量 やや少

予察灯による第2回成虫の初発期は、長沼町では平年並で、北斗市では平年よりやや早く、比布町では平年より早かった。予察灯による成虫誘殺数は、北斗市では平年並だったが、比布町では平年よりやや少なく、長沼町では平年より少なかった。予察田における水田すくい取り成虫数は、いずれの地点も平年並だった。

7月6半旬の巡回調査において、水田すくい取りによる発生モニタリングでの追加防除の基準である捕獲数2頭以上(きらら397)である水田は、全76調査地点のうち、石狩、空知、上川、留萌の計10地点であった。

アカヒゲホソミドリカスミカメ成虫の予察灯誘殺数および予察田における水田すくい取り数

月・半旬	予察灯誘殺数						水田すくい取り数 (20回振り×5日分換算値)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	3	10.7	4	1.8	4	4.4	0	0.0	0	0.0	2.5	0.3
2半旬	16	30.7	2	2.4	20	8.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3半旬	83	124.9	1	3.0	40	16.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4半旬	39	239.3	11	4.7	58	46.5	0	1.3	0	0.5	0	0.5
5半旬	290	459.0	2	17.5	64	52.5	2.5	0.8	5	0.3	0	1.5
6半旬	289	735.2	27	56.3	62	82.1	2.5	5.3	0	0.5	0	2.8
初発期	7月5日	7月7日	7月7日	7月14日	7月9日	7月13日						
平年数	10		10		10		5		10		10	

巡回調査によるアカヒゲホソドリカスミカメ成幼虫の20回振りすくい取り頭数

普及 センター		地点数	畦畔				水田	
			7月3半旬		7月6半旬		7月6半旬	
			本年	昨年	本年	昨年	本年	昨年
空知	本所	5	0	0.2	0	0	0	0
	南東部	2	0	0.3	0	0.2	0.5	0
	南西部	3	0.7	0	1.3	0	1.0	0
	中空知	4	1.0	1.3	0.5	1.5	0.3	0.8
	北空知	7	0.3	0.4	0.7	1.6	0.6	0.7
石狩	本所	5	2.6	0.2	1.4	0	1.0	0
	北部	7	0.9	0.3	4.1	0	1.1	0
後志	本所	4	0	1.8	1.3	0	0	0
胆振	東胆振	4	0	0.5	1.0	0	0	0
日高	西部	3	0	0	0	1.0	0.3	0
渡島	本所	3	0	0	0	2.1	0	0
檜山	本所	2	0	0	0	1.0	0	0.5
	北部	2	0	0	0.5	0	0.5	0
上川	本所	8	3.6	2.0	0.3	0.1	0.1	0
	富良野	2	0	0	0	0.5	0	0.5
	大雪	4	0.5	1.0	1.5	0	1.3	0.5
	士別	2	0.5	2.5	0	4.0	1.5	12.5
	名寄	3	0	0	0	0	0	2.0
留萌	本所	3	0.2	2.3	0.2	0	0	0
	南留萌	3	0.3	0.7	1.0	1.7	1.3	0.7

6. フタオビコヤガ 発生量 やや少

予察灯による成虫誘殺数は、いずれの地点とも平年より少なかった。第2回幼虫による予察田の被害葉率は、長沼町で平年よりやや高く、北斗市で平年並、比布町では平年より低かった。

予察田におけるフタオビコヤガの発生状況

月・半旬	予察灯誘殺数						被害葉率(%)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	7.0	0	74.9	0	11.1	4.2	0.5	0	1.2	0	0.0
2半旬	3	14.3	1	63.4	0	16.6	3.7	0.9	0	1.2	0	0.1
3半旬	2	26.5	0	16.3	0	7.6	1.6	1.1	0	2.5	0	0.0
4半旬	0	3.0	1	3.4	0	0.7	3.3	2.4	0	4.3	0.1	0.0
5半旬	1	3.4	3	20.4	0	3.8	3.5	2.5	0	5.9	0	0.0
6半旬	11	15.3	76	236.4	0	18.5	5.7	4.6	0.6	7.5	0.5	0.1
平年数	10		10		10		5		10		10	

農薬による蜜蜂への被害に注意しましょう!!

蜜蜂は蜂蜜の生産ばかりでなく花粉交配用として非常に重要な生き物ですが、近年、道内では、農薬によると見られる被害が、水田地帯を中心に毎年度発生しており、深刻な状況にあります。

蜜蜂は、蜜を集めるために6 kmも飛行すると言われており、農薬散布を予定しているほ場近くで飼われている場合には、巣箱を移動してもらうか、蜜蜂に影響の少ない薬剤を選ぶとともに、気象条件等を勘案し、活動が活発となる時間帯を避けましょう。

また、農薬散布については、使用する薬剤・時期などを養蜂家に的確に情報提供するとともに、事前の話し合いを行うようにしましょう。

国の蜜蜂被害調査結果や関係する通知等については、農林水産省ホームページをご覧ください。

http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_mitubati/honeybee.html

B. 秋まき小麦

1. 赤かび病 発生量 並

予察ほにおける主要品種「きたほなみ」での発生量は、芽室町で平年より少なく、長沼町で平年よりやや少なく、訓子府町では平年より多かった。発生菌種は、長沼町、芽室町、訓子府町いずれの地点においても *Fusarium graminearum* の割合が高かった。

予察ほにおける赤かび病発生状況

地点	品種名	病穂率(%)			病原菌別割合(%)				
		本年	平年	平年数	M.niv.	F.ave.	F.gra.	F.cul.	F.sp.
長沼町	きたほなみ	2.0	4.3	7	28.6	0	71.4	0	0
	チホクコムギ	3.7	7.3	10	20.8	0	79.2	0	0
芽室町	きたほなみ	1.3	21.4	8	12.1	4.4	83.5	0	0
	チホクコムギ	9.0	32.0	10	51.6	16.1	22.6	0	9.7
訓子府町	きたほなみ	27.7	10.9	8	6.0	24.0	70.0	0	0
	チホクコムギ	34.0	13.5	10	20.0	16.0	64.0	0	0

注) M.niv.: *Microdochium nivale*、F.ave.: *Fusarium avenaceum*、F.gra.: *F.graminearum*、F.cul.: *F.culmorum*、F.sp.: *Fusarium* sp.

2. アブラムシ類 発生量 少

予察ほにおけるムギヒゲナガアブラムシの発生量は、長沼町で平年並で、訓子府町では平年より少なかった。ムギクビレアブラムシの発生量は、長沼町で平年より少なかった。訓子府町では寄生が認められなかった。

予察ほの秋まき小麦におけるアブラムシ類の寄生虫数(25穂)

月・半旬	ムギヒゲナガアブラムシ				ムギクビレアブラムシ			
	長沼町		訓子府町		長沼町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	4	2.7	15	32.6	0.5	3.4	0	9.3
2半旬	3	0.6	10	13.2	0	4.4	0	4.6
3半旬	0	0.9	0	5.4	0.5	4.9	0	1.8
4半旬	0	0.0	—	5.0	0	0.5	—	5.8
平年数	10		10		10		10	

注) —: 枯れ上りのため調査打ち切り

C. 春まき小麦

1. 赤かび病 発生量 やや多

予察ほの「春よ恋」における発生量は、長沼町では平年よりやや多かった。発生菌種は、長沼町、比布町ともに *Fusarium graminearum* が主体であった。

予察ほにおける赤かび病発生状況

地点	品種名	病穂率(%)			病原菌別割合(%)			
		本年	平年	平年数	M.niv.	F.ave.	F.gra.	F.cul.
長沼町	春よ恋	33.0	21.8	10	0	2.8	97.2	0
比布町	春よ恋	0.4	—	—	0	0	100.0	0

注1) 比布町の「春よ恋」は平年値なし

注2) M.niv.: *Microdochium nivale*、F.ave.: *Fusarium avenaceum*、F.gra.: *F.graminearum*、F.cul.: *F.culmorum*

D. 豆類

1. ペと病（大豆） 発生期 遅 発生量 少

長沼町の予察ほにおける初発期は平年より遅く、発生量は平年より少なかった。

予察ほにおける大豆のペと病発生状況

地点	品 種 名	初発期		発病度						平年数
				7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	トヨムスメ	7月24日	7月9日	0	5.6	0	9.8	1.5	20.0	10

2. 菌核病（菜豆） 発生期 やや早 発生量 少

芽室町の予察ほにおける初発期は平年よりやや早かった。発生量は平年より少なかった。7月6半旬の巡回調査によると、一般ほにおいては、上川地方で発生が認められている。

予察ほにおける菌核病の発生状況

地点	品種名	初発期		発病度				平年数
				7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
芽室町	大正金時	7月21日	7月25日	0	0.1	0.4	5.4	10

一般ほにおける菌核病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)	普及センター		地点数	発病株率(%)
			7月6半旬				7月6半旬
胆振	本所	1	0	十勝	本所	2	0
上川	士別	1	0.25		東部	6	0
網走	美幌	2	0		東北部	4	0
					北部	3	0
					西部	3	0
					南部	2	0

3. 灰色かび病（小豆・菜豆） 発生期 並 発生量 少

長沼町の予察ほ（小豆）における初発期は平年より遅く、7月6半旬時点で発生は認められていない。芽室町の予察ほ（菜豆）における初発期は平年よりやや早く、発生量は平年より少なかった。7月6半旬の巡回調査によると、いずれの地点においても発生が認められていない。

予察ほにおける灰色かび病発生状況（小豆）

地点	品種名	初発期		発病度				平年数
				7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	しゅまり	8月8日	8月2日	0	0	0	0.3	10

予察ほにおける灰色かび病発生状況(菜豆)

地点	品種名	初発期		発病度				平年数
				7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
芽室町	大正金時	7月18日	7月21日	0.2	0.3	1.0	11.7	10

小豆の一般ほにおける灰色かび病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)	普及センター		地点数	発病株率(%)
			7月6半旬				7月6半旬
空知	本所	2	0	留萌	本所	2	0
石狩	本所	3	0	網走	本所	2	0
後志	本所	2	0		網走	2	0
胆振	本所	3	0		美幌	3	0
	東胆振	3	0	十勝	本所	3	0
檜山	本所	2	0		東部	6	0
	北部	1	0		東北部	4	0
上川	富良野	1	0		北部	3	0
	大雪	3	0		西部	3	0
	士別	2	0				
	名寄	1	0				

菜豆の一般ほにおける灰色かび病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)	普及センター		地点数	発病株率(%)
			7月6半旬				7月6半旬
胆振	本所	2	0	十勝	本所	2	0
上川	士別	1	0		東部	6	0
網走	美幌	2	0		東北部	4	0
					北部	3	0
					西部	3	0
					南部	2	0

4. アズキノメイガ(小豆)

発生期 並 発生量 並

予察灯における初発期は、芽室町で平年より早く、長沼町で平年並だった。7月の誘殺数は、長沼町で4頭(平年:4.0頭)、芽室町では1頭(平年:1.9頭)といずれも平年並だった。訓子府町(平年:0.8頭)では誘殺を認めていない。

予察灯におけるアズキノメイガ初発期

長沼町		芽室町		訓子府町	
本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月8日	7月8日	6月28日	7月15日	-	7月4日

5. 食葉性鱗翅目幼虫（大豆・小豆） 発生量 やや少

予察ほにおける食害程度は、長沼町、訓子府町ともに大豆で平年並、小豆では平年より低かった。

予察ほの大豆および小豆における食葉性鱗翅目幼虫の食害程度(25 株)

月・半旬	大豆				小豆			
	長沼町		訓子府町		長沼町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7 月 1 半旬	2	15.9	0	6.9	2	11.2	0	3.7
2 半旬	6	18.5	4	10.2	3	14.2	1	4.3
3 半旬	9	27.5	8	13.3	3	17.0	1	6.9
4 半旬	9	31.4	12	19.0	6	18.2	1	10.1
5 半旬	28	36.4	22	24.1	7	18.2	1	11.9
6 半旬	34	39.3	25	27.4	10	19.6	1	14.0
平年数	10		9		10		9	

6. ジャガイモヒゲナガアブラムシ(大豆) 発生量 やや多

予察ほの大豆における寄生虫数は、芽室町で平年より多く、長沼町で平年よりやや多く、訓子府町では平年並だった。

予察ほの大豆におけるジャガイモヒゲナガアブラムシの寄生虫数

月・半旬	長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7 月 1 半旬	6	2.9	3	2.5	0	4.0
2 半旬	11	1.3	8	3.4	1	2.0
3 半旬	2	0.5	15	4.8	9	2.7
4 半旬	0	0.1	38	4.8	0	1.9
5 半旬	0	0.6	16	3.6	1	1.4
6 半旬	0	0.0	8	3.1	0	1.4
平年数	10		10		10	

注) 25 株の株あたり 1 茎について、上・中位の各先端 1 小葉、合計 50 小葉を調査

7. マメアブラムシ(小豆) 発生量 少

予察ほの小豆における寄生株率は、いずれの地点とも平年より低かった。

予察ほの小豆におけるマメアブラムシ寄生株率(%)

月・半旬	長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7 月 1 半旬	4	27.6	4	21.9	0	8.9
2 半旬	3	32.4	4	28.0	0	8.0
3 半旬	0	31.6	0	29.2	0	7.6
4 半旬	0	25.3	0	26.4	0	10.2
5 半旬	0	11.1	0	20.0	0	13.8
6 半旬	0	4.0	0	5.2	0	5.8
平年数	9		10		9	

E. ばれいしょ

1. 疫病 発生期 並 発生量 並

予察ほの「とうや」における初発期は、訓子府町では平年より早く、芽室町では平年よりやや早く、長沼町、北斗市では遅かった。発生量は芽室町では平年よりやや多く、訓子府町では平年並、長沼町および北斗市では平年より少なかった。

巡回調査の報告によると、一般ほにおいては、後志、胆振、上川、オホーツク、十勝、根室地方で7月3半旬から発生が認められ、7月6半旬には釧路地方でも発生が認められた。

F L A B Sによる初発期の予測は、訓子府町の「とうや」において適合した。他の地点については予測初発日が7月3日以前のため、70%信頼区間の計算式がなく、適合性の判定はできなかった。

予察ほにおけるばれいしょの疫病初発期

地点	品種名	初発期		平年数
		本年	平年	
長沼町	とうや	7月24日	7月15日	9
	スノーマーチ	7月24日	7月22日	8
北斗市	とうや	7月23日	7月8日	8
芽室町	とうや	7月5日	7月8日	10
	男爵薯	7月6日	7月9日	9
	スノーマーチ	7月5日	7月12日	9
	紅丸	7月3日	7月8日	10
訓子府町	とうや	7月6日	7月14日	9
	スノーマーチ	7月19日	7月13日	8

予察ほにおけるばれいしょの疫病発生状況

地点	品種名	発病度											
		7月1半旬		7月2半旬		7月3半旬		7月4半旬		7月5半旬		7月6半旬	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
長沼町	とうや	0	0.1	0	0.2	0	0.8	0	4.9	0	21.6	21.0	44.6
	スノーマーチ	0	0	0	0.1	0	1.1	0	5.3	2.5	14.8	28.5	35.1
北斗市	とうや	0	8.4	0	14.7	0	33.7	0	48.8	1.5	61.6	4.0	66.8
芽室町	とうや	0	0.8	1	4.1	2.0	16.8	19.0	40.2	100	63.8	100	87.7
	男爵薯	0	1.6	1	7.9	17.0	22.1	46.5	38.9	100	71.7	100	89.3
	スノーマーチ	0.5	2.6	2	5.1	4.0	16.6	27.5	28.2	92.5	50.3	100	80.1
	紅丸	0.5	2.0	4.5	6.7	16.5	18.8	35.5	39.4	98.5	61.3	100	84.2
訓子府町	とうや	0	0.1	2.5	2.9	4.0	6.6	9.5	14.8	34.5	29.1	83.5	52.7
	スノーマーチ	0	0.1	0	2.8	0	5.3	1.0	13.1	10.5	22.4	75.0	41.4

一般ほにおけるばれいしょの疫病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)	
			7月3半旬	7月6半旬
空知	南東部	1	0	0
後志	本所	4	2.0	0
胆振	本所	2	1.0	0
渡島	本所	2	0	0
檜山	本所	2	0	0
	北部	4	0	0
上川	富良野	3	0	0
	大雪	3	4.7	0
	士別	2	0	0
	名寄	1	0	0

普及センター		地点数	発病株率(%)	
			7月3半旬	7月6半旬
網走	本所	6	2.7	5.0
	清里	3	0.5	1.0
	網走	2	0	0.5
	美幌	2	2.0	2.6
十勝	本所	5	1.3	0
	東部	6	0.5	0
	東北部	1	0	0
	北部	3	0	0
	西部	3	1.0	1.0
	南部	3	1.0	2.2
釧路	本所	4	0	0.8
根室	北根室	3	17.3	23.3

予察ほにおけるFLABSの予測結果の適合性

地点	品種名	萌芽日	基準月日	予測初発日	70%信頼区間	初発日	判定
長沼町	とうや	6月1日	6月12日	7月1日	-	7月24日	-
	スノーマーチ	5月31日	6月10日	6月29日	-	7月24日	-
北斗市	とうや	6月1日	6月9日	6月29日	-	7月23日	-
芽室町	とうや	5月31日	6月13日	7月2日	-	7月6日	-
	スノーマーチ	5月31日	6月13日	7月2日	-	7月5日	-
訓子府町	とうや	6月1日	6月23日	7月9日	7/2 ~ 7/16	7月6日	○
	スノーマーチ	5月31日	6月23日	7月8日	7/1 ~ 7/16	7月19日	×

注1) 基準月日は萌芽日からの累積危険値が21に到達した日

注2) ○: 初発日が70%信頼区間内、×: 初発日が70%信頼区間外

注3) -: 予測初発日が7月3日より以前の場合、70%信頼区間の計算式がない

2. アブラムシ類 発生量 並

予察ほにおけるジャガイモヒゲナガアブラムシの発生量は、長沼町および芽室町で平年よりやや多く、訓子府町では平年より少なかった。ワタアブラムシの発生量は、長沼町で平年より多く、訓子府町では平年より少なかった。芽室町では発生が確認されなかった。モモアカアブラムシは、長沼町でのみ認められたものの寄生虫数は少なかった。

7月6半旬の巡回調査によると、20 複葉当たりの寄生虫数が 20 頭を超える地点は渡島、オホーツク、十勝地方の計 4 地点で認められた。

予察ほのばれいしょにおけるアブラムシ類の寄生虫数

月・半旬	ジャガイモヒゲナガアブラムシ						ワタアブラムシ					
	長沼町		芽室町		訓子府町		長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	1.5	1.9	2	3.5	1.0	12.2	10.0	2.8	0	0.2	1.0	4.3
2半旬	3.0	1.1	5	5.1	15.5	12.6	34.5	3.6	0	0.0	2.5	5.8
3半旬	2.0	0.6	11	7.0	13.5	13.2	31.0	9.2	0	0.1	0.0	12.0
4半旬	1.0	0.5	11	10.4	0.5	7.9	135.0	2.9	0	0.3	1.5	8.5
5半旬	0	0.3	9	3.9	0.5	6.1	78.0	1.2	0	1.0	1.5	19.6
6半旬	0	0.4	4	2.3	0.5	8.2	11.5	1.8	0	0.8	4.5	35.1
平年数	10		10		10		10		10		10	

注1) 20 株各 2 複葉、合計 40 複葉を調査。虫数は 10 株 20 複葉あたり換算虫数

注2) 品種は「スノーマーチ」

巡回調査によるばれいしょのアブラムシ類寄生虫数

普及 センター	地点	数	7月3半旬		7月6半旬		本年優占種
			本年	昨年	本年	昨年	
空知	南東部	1	0	0	0	0	
後志	本所	4	0	0	0	0	
胆振	本所	2	0	0	0	0	
渡島	本所	2	30.5	1.5	99.0	1.0	ヒゲナガ、ワタ
檜山	本所	2	1.5	1.0	3.5	12.0	モモアカ
	北部	4	0	0.3	3.5	0	モモアカ、ヒゲナガ
上川	富良野	3	0.7	0	0	0	ヒゲナガ
	大雪	3	1.3	0	0	0	
	士別	2	0	0	0	0	
	名寄	1	0	0	2.0	0	
網走	本所	6	1.3	1.3	5.8	0.2	ヒゲナガ、ワタ
	清里	3	3.0	1.7	28.0	2.0	ヒゲナガ、ワタ
	網走	2	6.0	0	0	1.5	モモアカ
	美幌	2	0.5	0	9.0	2.5	
十勝	本所	5	0.4	1.3	14.8	0	モモアカ、ヒゲナガ
	東部	6	0.2	0.7	0	0.3	
	東北部	1	0	0	0	0	
	北部	3	0	0	0	0	
	西部	3	1.0	2.0	1.0	0	ヒゲナガ
	南部	3	0	0	0	0.01	
釧路	本所	4	0	0	0	0	
根室	北根室	3	0	0	0	0	

注 1) 10 株 20 複葉調査

注 2) ヒゲナガ: ジャガイモヒゲナガアブラムシ、ワタ: ワタアブラムシ、モモアカ: モモアカアブラムシ

F. てんさい

1. 褐斑病 発生期 早 発生量 やや多 <7月7日付け注意報第3号>

予察ほにおける初発期は、長沼町、芽室町、訓子府町いずれの地点においても平年より早かった。発生量は、長沼町、芽室町ではやや多く、訓子府町では平年並であった。

巡回調査の報告によると、一般ほにおいては、空知、胆振、オホーツク、十勝地方で発生が認められた。

予察ほにおけるてんさいの褐斑病発生状況

地点	品種名	初発期		発病度						平年数
				7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	ライエン(HT-39)	7月5日	—	1.6	—	4.0	—	12.4	—	—
	あまいぶき	7月4日	7月11日	4.4	0.6	4.8	2.7	14.0	11.2	7
芽室町	リッカ	7月6日	—	4.0	—	4.0	—	8.8	—	—
	あまいぶき	7月6日	7月13日	2.0	1.8	4.0	3.0	18.0	11.7	5
	スタウト	7月6日	7月17日	1.6	1.7	1.6	2.7	8.4	7.7	8
訓子府町	リッカ	7月3日	7月12日	0.4	0.8	2.8	2.9	10.0	9.7	8

注) 長沼町の「ライエン」と芽室町の「リッカ」は平年値なし

一般ほにおけるてんさいの褐斑病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)	
			7月3半旬	7月6半旬
空知	南東部	3	2.0	4.0
石狩	本所	3	0	0
後志	本所	3	0	0
胆振	本所	4	0	2.3
	東胆振	3	1.5	2.3
上川	富良野	3	0	0
	大雪	3	0	0
	士別	1	0	0
	名寄	2	0	0

普及センター		地点数	発病株率(%)	
			7月3半旬	7月6半旬
網走	本所	10	0.8	0.5
	清里	3	0	0
	網走	2	0.5	0
	美幌	5	0.6	1.2
	遠軽	9	11.2	13.1
十勝	本所	5	2.8	3.6
	東部	6	0.7	7.8
	東北部	4	0.5	11.6
	北部	3	0	0
	西部	3	0	0
	南部	3	0	0.7

2. ヨトウガ(第1回) 発生量 やや少

予察ほにおける食害程度は長沼町および芽室町で平年並、訓子府町では平年より低かった。卵塊はいずれの地点も確認されなかった。

7月3半旬の巡回調査において、被害株率が50%以上であるほ場はなかった。

予察ほにおけるヨトウガの産卵塊数および食害程度(50株)

月・半旬	卵塊数(50株あたり)						食害程度					
	長沼町		芽室町		訓子府町		長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	0.8	0	0.8	0	0.1	28.5	26.5	5	13.3	0	3.1
2半旬	0	0.1	0	0.2	0	0.1	32.0	41.0	13	18.7	3	7.3
3半旬	0	0.3	0	0.3	0	0.0	35.0	52.3	20	25.4	8	13.5
4半旬	0	0.2	0	0.0	0	0.0	59.5	59.8	25	31.8	13	19.4
5半旬	0	0.0	0	0.0	0	0.0	63.0	63.0	35	34.1	15	25.5
6半旬	0	0.1	0	0.1	0	0.0	71.5	62.5	36	37.0	16	32.2
平年数	10		10		10		10		10		10	

巡回調査によるてんさいのヨトウガ被害株率および食害程度

普及センター		地点数	被害株率(%)		食害程度	
			7月3半旬		7月6半旬	
			本年	昨年	本年	昨年
空知	南東部	1	0	0	2.0	0
石狩	本所	3	11.3	19.3	4.7	4.3
後志	本所	3	13.7	7.3	4.7	25.0
胆振	本所	4	4.5	16.0	5.3	6.1
	東胆振	3	3.7	2.3	2.1	0.1
上川	富良野	3	11.7	4.3	12.3	0.7
	大雪	3	1.7	2.7	0	1.7
	士別	1	26.0	0.5	14.0	0
	名寄	2	16.0	8.0	2.0	2.0

普及センター		地点数	被害株率(%)		食害程度	
			7月3半旬		7月6半旬	
			本年	昨年	本年	昨年
網走	本所	10	9.2	4.1	3.9	1.5
	清里	3	5.0	1.3	3.3	3.0
	網走	2	0	3.0	0.01	6.5
	美幌	5	1.6	0.8	0.8	3.6
	遠軽	9	8.9	7.8	8.9	7.1
十勝	本所	5	2.0	3.5	2.6	2.5
	東部	6	3.3	3.5	1.7	2.2
	東北部	4	3.3	0.5	4.5	0
	北部	3	0	0	0	0.3
	西部	3	0.3	6.7	3.3	0.2
	南部	3	4.0	1.3	0.5	0.04

注1)被害株率:50株調査

注2)食害程度:25株調査

G. たまねぎ

1. 白斑葉枯病 発生量 やや多

予察ほにおける発生量は、長沼町では平年より多く、訓子府町では平年並であった。

巡回調査の報告によると、一般ほにおいては全道的に発生が認められ、特に空知、上川地方において発生が多かった。

予察ほにおけるたまねぎの白斑葉枯病発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	北もみじ2000	62.0	31.5	75.0	42.6	97.5	67.6	7
訓子府町	北もみじ2000	2.5	6.2	4.0	14.0	25.0	21.3	5

一般ほにおけるたまねぎの白斑葉枯病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)		普及センター		地点数	発病株率(%)	
			7月3半旬	7月6半旬				7月3半旬	7月6半旬
空知	本所	5	1.6	0	上川	富良野	4	14.0	28.5
	南東部	3	54.7	77.0		士別	2	28.0	56.0
	南西部	2	25.0	35.0	網走	本所	8	6.5	9.0
	中空知	1	23.0	45.0		美幌	4	2.4	15.0
石狩	北部	2	13.0	16.0	遠軽	3	0.7	1.3	
					十勝	東部	1	6.0	6.0

2. ネギアザミウマ 発生量 少

予察ほにおける寄生幼虫数は、長沼町、訓子府町ともに平年より少なかった。被害程度は長沼町で平年より低く、訓子府町では平年並だった。

巡回調査によると、7月6半旬の調査で寄生株率が50以上であるほ場は、全35地点中石狩地方の2地点にとどまった。

予察ほにおけるネギアザミウマの発生状況(25株5ヵ所)

月・半旬	幼虫数				被害程度			
	長沼町		訓子府町		長沼町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	7	312	176	1511	2	32.0	33	56.6
2半旬	4	180	228	1877	5	43.5	52	69.4
3半旬	6	492	259	1949	5	49.9	72	79.7
4半旬	34	613	617	1992	14	58.1	89	86.2
5半旬	41	613	691	1826	19	68.5	97	88.7
6半旬	4	435	1193	2055	19	75.1	100	89.4
平年数	10		10		10		10	

巡回調査によるたまねぎのネギアザミウマ寄生株率(%)

普及 センター		地点数	7月3半旬		7月6半旬	
			本年	昨年	本年	昨年
空知	本所	5	4.0	10.4	0	100
	南東部	3	0	10.0	0	4.3
	南西部	2	0	0	20.0	0
	中空知	1	0	1.0	0	22.0
石狩	北部	2	26.0	25.0	62.0	50.0

注)25 株調査

普及 センター		地点数	7月3半旬		7月6半旬	
			本年	昨年	本年	昨年
上川	富良野	4	0	0.5	0	14.0
	士別	2	0	20.0	0	12.0
網走	本所	8	1.5	3.3	0.5	1.0
	美幌	4	10.5	11.5	9.0	8.0
	遠軽	3	0	0	1.3	1.3
十勝	東部	1	4.0	12.0	100	0

注)25株調査

H. あぶらな科野菜

1. 軟腐病 発生量 少

長沼町の予察ほ（だいこん）において、春まき、晩春まき作型いずれにおいても発生が認められなかった。

予察ほにおける軟腐病発生状況（だいこん）

地点	作物名	品種名	作型	発病株率(%)						平年数
				7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
				本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	だいこん	おしん	春まき	0	0.2	0	0.7	0	2.4	10
		耐病総太り	初夏まき	－	－	0	0	0	0.5	10

注) - : 調査時期外

2. モンシロチョウ 発生量 並

予察ほのキャベツにおける寄生幼虫数は、長沼町では平年よりやや少なく、北斗市では平年より多かった。

予察ほのキャベツにおけるモンシロチョウ幼虫の発生状況

月・半旬	長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	0.1	25	5.2
2半旬	2	11.6	37	22.0
3半旬	18	23.9	74	50.6
4半旬	35	49.4	77	34.6
5半旬	19	38.7	39	48.0
6半旬	1	28.0	20	13.2
平年数	10		10	

注) 10 株あたりの寄生幼虫数

3. コナガ 発生量 やや多

＜7月27日付け注意報第4号＞

フェロモントラップによる成虫誘殺数は、長沼町および北斗市で平年より多く、芽室町および訓子府町では平年並だった。予察ほのキャベツにおける寄生幼虫数は、長沼町では平年並で、北斗市では平年よりやや多かった。

フェロモントラップによるコナガ雄成虫の誘殺頭数

月・半旬	長沼町		北斗市		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	30	62.4	12	61.7	6	8.4	8	4.5
2半旬	230	81.7	80	46.4	3	7.5	1	5.4
3半旬	295	143.9	198	47.8	2	5.8	7	6.0
4半旬	183	150.8	78	61.7	4	5.8	7	4.7
5半旬	191	108.8	65	77.8	6	5.5	8	2.5
6半旬	265	102.3	203	90.6	0	2.7	3	3.2
平年数	10		10		10		10	

注) 設置場所はあぶらな科野菜ほ場近辺、芽室町はあぶらな科野菜以外のほ場近辺、訓子府町は雑草地

予察ほのキャベツにおけるコナガ幼虫の発生状況

月・半旬	長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	5.1	19	3.9
2半旬	15	19.2	7	67.9
3半旬	54	48.0	46	35.2
4半旬	149	75.5	201	85.5
5半旬	81	132.4	195	183.0
6半旬	18	115.5	148	71.2
平年数	10		10	

注)10株あたりの寄生虫数

I. りんご

1. 黒星病 発生量 多

＜6月12日付け注意報第2号＞

長沼町の予察園（無防除）での発生量は、「昂林」で平年より多く、「つがる」では平年並であった。余市町の予察園（慣行防除）においても発生が認められた。巡回調査の報告によると、7月3半旬現在、後志および渡島地方で発生が認められている。

長沼町の予察園（無防除）におけるりんごの黒星病発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	昂林	22.0	6.0	23.9	10.2	32.3	13.6	8
	つがる	5.4	6.7	5.8	10.2	5.1	11.3	8

余市町の予察園（慣行防除）におけるりんごの黒星病発生状況

地点	品種名	病葉率(%)										平年数
		7月第1週		7月第2週		7月第3週		7月第4週		7月第5週		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
余市町C	王林	—	—	0	—	0.5	—	0.5	—	0.5	—	—
	つがる	—	—	2.6	—	8	—	10	—	14.9	—	—

一般園におけるりんごの黒星病巡回調査結果

普及センター		地点数	病葉率(%)
			7月3半旬
後志	北後志	3	8.2
胆振	本所	1	0
渡島	本所	3	2.2
留萌	南留萌	1	0

2. 斑点落葉病 発生量 並

長沼町の予察園（無防除）における発生量は新梢、徒長枝ともに平年並であった。余市町の予察園（慣行防除）では未発生である。巡回調査によると、7月3半旬現在、渡島および留萌地方の感受性品種（デリシヤス系）で発生が認められている。

長沼町の予察園（無防除）におけるりんごの斑点落葉病発生状況

地点	品種名	病葉率(%)						平年数
		7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	王林(新梢)	1.6	1.3	2.8	2.4	4.2	3.1	7
	王林(徒長枝)	1.7	1.3	3.0	1.8	3.8	2.7	7

一般園におけるりんごの斑点落葉病巡回調査結果

普及センター		地点数	病葉率(%)
			7月3半旬
後志	北後志	3	0
胆振	本所	1	0
渡島	本所	1	0.7
留萌	南留萌	1	10.0

3. ハマキムシ類 発生量 並

予察園におけるフェロモントラップによるリンゴコカクモンハマキの誘殺数は、長沼町で平年よりやや多く、余市町A、同Bでは平年並だった。リンゴモンハマキの誘殺数は、いずれの地点も平年並だった。

一般園におけるフェロモントラップによるリンゴコカクモンハマキの誘殺数は、いずれの地点も平年並だった。リンゴモンハマキの誘殺数は、伊達市で平年よりやや多く、その他の地点では平年並だった。

予察園におけるフェロモントラップによるハマキムシ類の誘殺頭数

月・半旬	リンゴコカクモンハマキ						リンゴモンハマキ					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	34	13.2	1	3.2	4	1.6	123	97.3	1	2.4	0	1.7
2半旬	4	7.4	0	0.9	0	1.2	61	69.3	1	1.3	1	1.1
3半旬	3	3.7	0	1.0	0	1.6	24	31.0	0	0.6	1	0.2
4半旬	1	2.5	0	1.0	0	0.9	25	17.4	0	0.6	0	0.3
5半旬	0	0.4	0	0.6	0	1.7	10	10.0	0	0.3	0	0.0
6半旬	0	0.0	0	1.2	0	1.6	4	4.2	0	0.6	0	0.3
平年数	10		10		10		10		10		10	

注)余市町の予察園は慣行防除

一般園におけるリンゴコカクモンハマキのフェロモントラップによる誘殺頭数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		伊達市		壮瞥町		七飯町		旭川市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0.5	1.4	3.4	6.9	1.1	4.3	2.0	1.1	3.3	6.9	4	2.9
2半旬	1.5	0.6	2.1	3.1	2.9	2.5	0.7	0.3	2.7	4.7	0	0.7
3半旬	0	0.5	0	1.9	1.1	1.4	0	0.1	0	2.4	2	0.2
4半旬	0	0.1	0	1.1	0.9	1.6	0	0.1	0	1.3	0	0.3
5半旬	0	0.1	0.6	0.2	0	2.1	0	0.1	0	0.1	0	0.0
6半旬	0	0.1	0	0.2	0	1.0	0	0	0.9	0.1	0	0.7
平年数	10		10		10		10		8		6	

注)岩見沢市の値は2地点の平均

一般園におけるリンゴモンハマキのフェロモントラップによる誘殺頭数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		伊達市		壮瞥町		七飯町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	2.5	3.6	9.4	23.2	21.3	28.7	1.4	1.3	5.0	4.4
2半旬	1.5	2.6	17.1	25.6	45.7	35.4	1.4	1.5	8.0	5.3
3半旬	2.5	2.4	24.0	19.0	24.4	32.4	0	1.6	4.2	3.8
4半旬	1.3	2.1	22.2	19.0	26.2	22.5	0.1	1.3	5.8	1.7
5半旬	0.7	1.5	16.9	16.3	31.4	16.6	0.9	0.4	2.4	1.1
6半旬	0.6	0.9	5.9	7.9	30.0	7.9	0	0.1	2.6	0.3
平年数	10		10		10		10		8	

注) 岩見沢市の値は2地点の平均

4. モモシンクイガ 発生量 並

予察園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、長沼町では平年より少なく、余市町Aでは平年並だった。余市町Bでは平年より多かった。長沼町の予察園における産卵数は平年より少なかったものの、被害果率の上昇はやや早かった。

一般園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、岩見沢市では平年より多く、札幌市、壮瞥町では平年並だった。その他の地点では平年よりやや少なかった。

巡回調査では、調査対象の6園地いずれにおいても産卵は確認されなかった。

予察園におけるフェロモントラップによるモモシンクイガの誘殺頭数、産卵数および被害果率

月・半旬	フェロモントラップ誘殺頭数						産卵数		被害果率(%)	
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		長沼町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	23	28.6	4	14.3	36	15.4	29	23.9	0	0.1
2半旬	12	58.2	8	18.0	65	19.1	58	83.3	0	2.7
3半旬	5	41.8	21	23.1	57	25.0	70	147.9	22	10.1
4半旬	28	64.0	42	25.5	35	32.0	75	213.9	50	36.5
5半旬	23	43.7	45	36.8	41	46.1	145	214.7	85	61.7
6半旬	20	91.0	54	53.9	81	56.8	114	178.0	97	79.7
平年数	10		10		10		10		10	

注1) 余市町の予察園は慣行防除

注2) 産卵数は100果あたりの卵数

一般園におけるフェロモントラップによるモモシンクイガの誘殺頭数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		伊達市		壮瞥町		七飯町		旭川市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	1.5	2.5	7.4	8.0	6.7	12.9	2.0	6.5	0.8	1.1	9	10.2
2半旬	5.5	5.8	22.1	12.2	9.3	20.0	2.9	7.8	2.2	2.5	7	17.7
3半旬	10.5	7.7	25.0	15.8	22.8	29.0	6.7	9.1	4.8	7.1	18	21.4
4半旬	31.7	7.8	19.9	14.6	20.0	27.7	7.9	6.3	14.2	16.3	22	22.1
5半旬	39.1	7.6	11.3	13.7	7.9	26.9	11.1	3.9	21.0	29.8	19	30.2
6半旬	36.7	11.7	3.9	15.5	4.3	27.5	4.3	4.7	6.0	63.4	14	38.2
平年数	10		10		10		10		8		9	

注) 岩見沢市の値は2地点の平均

5. ハダニ類 発生量 少

いずれの予察園においても、リンゴハダニの発生は認められなかった。

ナミハダニの発生量は、余市町Bで平年並だった。長沼町および余市町Aでは発生が認められなかった。

予察園におけるハダニ類成虫の発生状況

月・半旬	リンゴハダニ						ナミハダニ					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	0.4	0	0.6	0	0.6	0	0.1	0	2.4	8	4.8
2半旬	0	0.4	-	1.6	-	0.4	0	0.0	-	2.5	-	4.4
3半旬	0	0.2	0	3.0	0	0.0	0	0.1	0	1.0	0	0.0
4半旬	0	0.8	0	0.3	0	1.7	0	0.6	0	6.9	5	6.6
5半旬	0	0.9	-	0.0	-	0.0	0	0.0	-	1.0	-	5.3
6半旬	0	0.6	-	0.0	-	1.9	0	0.0	-	1.4	-	6.5
平年数	10		10		10		10		10		10	

注1)30葉あたりの寄生数

注2)余市町の予察園は慣行防除

6. キンモンホソガ 発生量 並

予察園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、長沼町で平年より少なく、余市町Aでは平年並だった。余市町Bでは平年より多かった。被害葉率は長沼町で平年よりやや低く、余市町Bでは平年並だった。余市町Aでは被害が認められなかった。

一般園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、壮瞥町および旭川市では平年より多く、伊達市では平年並だった。その他の地点では平年より少なかった。

予察園におけるキンモンホソガのフェロモントラップによる誘殺頭数および被害葉率

月・半旬	フェロモントラップ誘殺頭数						被害葉率(%)					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	3	13.7	74.2	99.4	73.4	58.5	1	0.6	0	0.0	0	0.1
2半旬	8	7.9	22.2	49.9	47.0	51.0	0	0.8	-	0.0	-	0.0
3半旬	6	12.1	86.9	52.9	31.8	50.1	0	0.3	0	0.2	0	0.0
4半旬	3	12.4	142.1	135.1	23.0	26.8	1	0.4	0	0.3	1	0.4
5半旬	7	19.2	79.3	124.6	44.0	56.9	0	2.8	-	1.6	-	1.4
6半旬	9	20.4	216.0	224.6	1260	127.3	1	5.4	-	1.4	-	0.5
平年数	10		10		10		10		10		10	

注)余市町の予察園は慣行防除

一般園におけるキンモンホソガのフェロモントラップによる誘殺頭数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		伊達市		壮瞥町		七飯町		旭川市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	20.0	144.7	0.3	1.4	1.6	4.9	352.4	160.6	8.3	158.8	13.0	2.0
2半旬	7.5	134.4	1.4	1.0	2.9	5.7	472.9	205.4	11.7	231.5	11.0	2.8
3半旬	8.0	101.0	0.3	2.5	6.1	5.5	348.3	215.5	3.0	200.0	2.0	1.2
4半旬	27.5	70.8	0	1.7	5.5	4.4	280.5	164.2	4.7	150.7	2.0	1.3
5半旬	13.5	46.1	0	1.0	4.1	4.3	38.1	128.1	5.2	82.2	2.0	0.3
6半旬	26.5	31.4	0	0.8	10.3	14.0	185.1	154.9	11.1	131.1	0	0.3
平年数	10		10		10		10		8		6	

注)岩見沢市の値は2地点の平均

平成 29 年度

6月15日～8月31日は**農薬危害防止運動**実施期間です！

北海道では、農薬の使用に伴う事故・被害を防止するため、農薬を使用する機会が増える6月から8月を期間として、農薬の安全かつ適正な使用や保管管理等を推進する「**農薬危害防止運動**」を実施します。

北海道農政部生産振興局技術普及課
(TEL 011-231-4111 (内線) 27-838)
北海道病害虫防除所
(TEL 0123-89-2080)
各総合振興局・振興局農務課



■ 農薬使用に関する注意事項

- 農薬は、農薬取締法に定められた事項が表示されたもの、または特定農薬に該当するものを選び、有効期限内に使い切れる量を購入する。
- 農薬のラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を読んで、十分理解し、表示された濃度や使用量等を守り、必要量以上に農薬を調製しない。
- 散布作業前日は、飲酒を控え、十分な睡眠をとる。体調が優れないときや著しく疲労しているときは、散布作業に従事しない。
- 農薬の使用前には、防除器具等を点検し、十分に洗浄がなされているか確認する。また、農薬の使用後には、防除器具の薬液タンク、ホース、噴頭、ノズル等農薬残留の可能性がある箇所に注意して、洗浄を十分に行う。
- 農薬を散布するときは、必要に応じ、あらかじめ周辺住民等に周知するとともに、看板等を立てるなど現場に近づかないよう配慮する。
特に無人ヘリで防除する場合は、学校や病院等の公共施設及び近隣の住民等に対し、実施予定日時、区域、薬剤等についての事前周知に努める。
- 農薬の飛散による危被害を防止するため、近隣の住民、飼育されている家畜及び蜜蜂、河川等の周辺環境への影響に注意する。
特に無人ヘリで薬剤散布する場合は、有機農産物が生産されているほ場等に農薬が飛散しないよう注意する。
- 農薬の調製及び散布作業中は、マスク、手袋、眼鏡等を着用し、体を防護する。
- 散布作業後は、よくうがいをし、手や顔などの露出部だけでなく入浴し全身を十分洗う。

★ 農薬情報の掲載サイト

農薬の登録情報や農薬取締法等については、農林水産省ホームページの「農薬コーナー」(<http://www.maff.go.jp/nouyaku/>)をご覧ください。